



臨床的特徴

- 潜伏期間は通常 2 ~ 7 日（最長10日以上）
- 高熱（ > 38 ）で始まり、悪寒、戦慄及びその他頭痛、
全身倦怠、筋肉痛など（インフルエンザ様）
- 典型的な例では発疹、神経学的症状、消化器症状などは
見られない。

臨床的特徴

- 発症後 3 ~ 7 日で、乾性咳嗽と呼吸困難で始まり、低酸素血症が見られるようになる。
- 呼吸器症状は、気管内挿管と人工呼吸器の装着が必要となるほど重症化することがある（10 ~ 20%）。
- 現在の WHO（世界保健機関）の疑い例、可能性例の症例
定義に当てはまる SARS 患者の致死率は 3 - 4 % 前後。
- 約 90% は 6 - 7 日目頃に回復

臨床的特徴

- 検査所見

- リンパ球数の減少（全白血球数は一般に正常又は減）
- 極期には、約半数の患者で白血球減少と血小板の正常下限値又は減少（ $50,000 \sim 150,000/\mu\text{l}$ ）
- 下気道症状期初期には、CPKの上昇（ $\sim 3000 \text{ IU/L}$ ）と、ALT/ASTの上昇（正常上限値の2～6倍）
- ほとんどの患者で、腎機能は正常



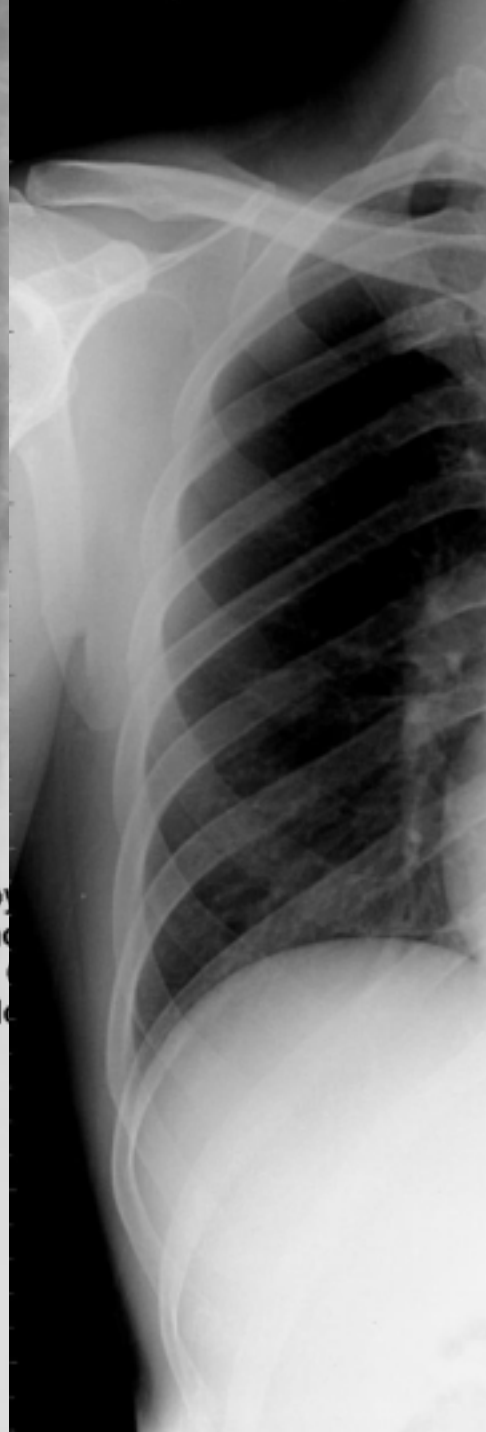
臨床的特徴

- 胸部レントゲン所見

- 多くの場合、初期の巣状浸潤陰影から、より広汎な斑状の間質浸潤陰影へと進行
- 有熱前駆期および全病期を通じて異常が見られないこともある



Copy
Princ
The
of Ho



Copyright:
Prince of Wales Hospital
The Chinese University
of Hong Kong